

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 星野 和幸	当該科目に関する実務経験 成年後見人 (新潟家庭裁判所より受任)
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] - 社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、社会的養護を必とする児童及びその家庭への援助の在り方を授業と演習により理解する。 [授業全体の内容の概要] - 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 - 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。 - 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。 - 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 - 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] - 要保護児童への具体的援助及び社会的養護そのものの資質的向上に向けて、これからの支援がどのようにされるべきかについて、学生一人一人が自らの考えを持つことができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] - 施設養護の職員とは - 施設養護における基本的援助技術① - 施設養護における基本的援助技術② - 社会的養護の実践① - 社会的養護の実践② - 社会的養護の支援の計画と内容及び事例分析① - 社会的養護の支援の計画と内容及び事例分析② - 虐待問題と児童養護① - 虐待問題と児童養護② - 社会的養護の課題と展望 - 施設養護の実践① - 施設養護の実践② - 施設養護の実践③ - 福祉施設実習に向けて - 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] 子どもの社会的養護～社会的養護の原理と内容：松本峰雄 著書 (健昂社) 参考図書：改訂 子どもの社会的養護 望月 彰 著書			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業時に提示された課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			